# 福建系・潮州系・広東系の銀行業

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

## 銀行が方言の境界に沿った理由

シンガポールの華人は方言集団に分かれており、それぞれが独自の団体、寺廟、業種、指導者を持っていました。第A部第V章では、この方言の地図と、その上に築かれた機関を描きました。華人が銀行を設立したときも、同じ境界に沿っていました。経済史家W. G. Huffは、マラヤにおける華人の預金銀行業の発展が方言の境界に沿って分かれていたと指摘しています。1903年から第二次世界大戦までの間に、マラヤでは13の華人銀行が設立され、そのうち11行が海峡植民地に、2行が半島にありました。[1]

その論理は、文化的であると同時に経済的なものでした。預金銀行は、その帳簿を調べることのできない人々の信頼を必要とします。華人コミュニティでは、その信頼は人に結びついていました。信頼を集めることができたのは方言集団の指導者であり、彼らは団体、寺廟、業種を通じて成員に知られていました。Huffは、預金銀行業に不可欠な信頼が、創業者や取締役としての有力企業家の参加によって得られたと述べています。彼らの名

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

声が、より広い華人の大衆に資金を預ける気にさせたのです。[2]方言別の銀行は、したがって、第A部で*xinyong*（信用）として述べた個人の評判を、制度的な預金へと転換する手段でした。

## 潮州系の銀行：四海通

シンガポールで2番目の華人銀行は、潮州コミュニティによって設立されました。国立図書館はその設立を1906年2月としていますが、他の資料は、Sze Hai Tong Banking and Insurance Companyとして法人化された年を1907年としています。[3]この差は、おそらく営業開始と正式登記の違いを反映しています。取締役の一人であるTan Swi Phiauは、Netherlands India Commercial Bankの買弁も務めていました。このことは、新しい華人銀行が買弁制度の中で鍛えられた人材を活用していたことを示しています。[4]

潮州系は、シンガポールで銀行サービスを必要とする二つの業種、すなわち米と送金を支配していました。20世紀半ばまでに潮州系商人は地元の米卸売市場の70%超を占め、20世紀には潮州系の送金業者が地元の送金市場の70%を占めていました。潮州系の銀行は、これらの企業の運転資金残高を預かり、バンコクとの米貿易を金融することができました。バンコクでは潮州系商人の何人かが精米所を経営していました。四海通は控えめな規模の機関にとどまりました。同行は60年以上にわたり独立の銀行として存続し、1972年に後の名称である四海通銀行（Four Seas Communications Bank）としてOCBCに買収されました。[5]

## 福建系の銀行：華商、和豊、華僑

シンガポール最大の方言集団である福建系は、7年間に三つの銀行を設立しました。最初は華商銀行（Chinese Commercial Bank）で、1912年8月17日、福建系の株主たちがHill Streetの中華総商会に集まり、最初の取締役を選出しました。同行は名目資本金400万ドルを登記し、200万ドルを発行しましたが、応募は発行額を上回りました。同行は1912年12月2日に開業しま

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

した。創業者には林秉祥（Lim Peng Siang）、李俊源（Lee Choon Guan）、林文慶（Lim Boon Keng）博士という、当時の福建系で最も著名な指導者3人が含まれていました。初年度の利益は84,742.03ドルでした。[6]

林秉祥は、この時期の福建系銀行業の原動力でした。1872年に厦門（アモイ）で生まれた彼は、1904年に弟の林秉懋（Lim Peng Mau）とともに和豊グループを創設し、1911年にWee Bin and Co.の海運事業の大部分を引き継ぎ、1913年に和豊輪船公司（Ho Hong Steamship Company）を設立しました。彼の2番目の銀行である和豊銀行（Ho Hong Bank）は1917年3月15日に登記され、1917年4月2日に営業を開始しました。授権資本は800万ドル、発行資本は400万ドルで、そのうち350万ドルが引き受けられ、その半額が払い込まれました。[7]

和豊は、華人銀行の中で最も外に目を向けた銀行でした。同行は直ちにマラッカとムアルに支店を開設し、1917年7月1日にはバトゥ・パハに支店を開き、1918年5月にペナンで営業を始め、1919年5月末までにはロンドン、ニューヨーク、サンフランシスコ、スマランに代理店を持っていました。1920年9月には授権資本を2,000万ドルに引き上げ、1923年10月1日に香港支店を開設しました。総支配人の蕭保齢（Seow Poh Leng）は外国為替業務を築き上げ、これにより和豊はマラヤで国際銀行業務に携わった最初の華人銀行となりました。[8]しかし、この同じ為替業務が1931年に同行を破綻寸前に追い込むことになります。

1919年には華僑銀行（Oversea-Chinese Bank）が加わり、3行がそろいました。同行は払込資本金525万ドルで福建系商人のグループによって設立され、その中にはゴム王の陳延謙（Tan Ean Kiam）も含まれており、彼は専務取締役となりました。[9]製材所経営者のTan Cheng Siongは最初の取締役会に名を連ね、英語教育を受けていない最初の総支配人となりました。華僑銀行と華商銀行は1929年に5階建てのChina Buildingを共同で建設しました。これは大恐慌前夜に福建系銀行業が到達した自信を目に見える形で示すものでした。[10]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

## 廣益以後の広東系

廣益銀行の破綻により、広東コミュニティは銀行を失いました。広東系の実業家たちは銀行業の利害を再編し、1920年3月20日にシンガポールで法人化された利華銀行（Lee Wah Bank）を設立しました。[11]同行は半世紀にわたり独立した広東系の機関であり続けた後、シンガポールの大手3行の3番目である大華銀行（United Overseas Bank）に吸収されました。買収の時期については資料により異なりますが、1970年代初頭に当たります。この時期の統合については第D部で検討します。[12]

三つの方言のパターンは、その経済的基盤が異なっていました。潮州系の銀行は米と送金に結びついていました。広東系の銀行は、建設、農園経営、質屋業に依拠していました。福建系の銀行は、植民地経済の中で最大かつ最も活力ある部門、すなわちゴムに、海運およびオランダ領東インドとの貿易を加えた基盤の上に立っていました。この基盤が福建系銀行に規模を与えましたが、同時に単一のコモディティの価格変動に最も直接的にさらすことにもなりました。

## ゴムと預金の変動

福建系3行はいずれも、李光前（Lee Kong Chian）、林義順（Lim Nee Soon）、葉平玉（Yap Pheng Geck）など、ゴムの生産と加工に携わるスポンサーや取締役に依存していました。その預金はゴム価格に連動しました。マラヤがゴムを大量に輸出し始めた第一次世界大戦中、華人銀行の預金は4倍に増加しました。1919年から1922年の間に預金は半分以下に減少し、その後、スティーブンソン制限計画（Stevenson restriction scheme）がゴム価格を押し上げた1924年から1925年の間に2倍以上に増えました。[13]ゴム経済と制限計画については、本部の第IV章で検討します。

Huffは、ゴムが分散化をこれほど困難にした理由を説明しています。ゴムはマラヤ経済にとってきわめて重要であったため、ゴム産業に固有のリスクと経済全体のシステミック・リスクとは、ほぼ同じものでした。[14]ゴム

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

価格が下落すると、預金者は先行きの不安から、また輸入品の支払いに現金が必要になったことから、資金を引き出しました。借り手と預金者がゴム関係者である銀行は、他のゴム関係者に貸し付けることでこの循環から逃れることはできませんでした。しかし、それこそが福建系の銀行家の多くが心得ていたやり方だったのです。

## 注

1. W. G. Huff, “Currency Boards and Chinese Banking Development”, 2003, p. 5：“The development of Chinese deposit banking in Malaya divided along dialect (speech group) lines”。W. G. Huff, “Currency Boards and Chinese Banking Development”, 2003, p. 5。Tan Ee-Leong, “The Chinese banks incorporated in Singapore and the Federation of Malaya”, *Journal of the Malayan Branch of the Royal Asiatic Society*, vol. 26, 1953, pp. 113–139を引用：1903年から第二次世界大戦までに13の華人銀行（海峡植民地に11行、マラヤ半島に2行）。 ↩

2. W. G. Huff, “Currency Boards and Chinese Banking Development”, 2003, p. 5：“the confidence vital to deposit banking was gained by the participation of major entrepreneurs as founders and directors”であり、彼らがより広い華人の大衆の間に信頼を植え付けたこと。 ↩

3. 1907年のSze Hai Tong Banking & Insurance Company Limitedとしての法人化、1957年のSze Hai Tong Bank Limitedへの改称、1964年のFour Seas Communications Bank Limitedへの改称、1972年のOCBCによる買収と1998年の合併：Teck Keeの境界標に関する国家遺産局（National Heritage Board）のメディアリリース（2022年）およびその他の二次資料。 ↩

4. Ong Eng Chuan, “Money Lending: A Short History”, *BiblioAsia*, April 2007：四海通は“was set up in February 1906, the second Chinese bank”。Ong Eng Chuan, “Money Lending: A Short History”, *BiblioAsia*, April 2007：四海通の

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

取締役Tan Swi Phiauは、Netherlands India Commercial Bankの買弁も務めていたこと。 ↩

5. “Traditional trades of the Teochews in Singapore”, *Culturepaedia* (Singapore Chinese Cultural Centre)（2026年11月最終閲覧）：“By the mid-20th century, Teochew merchants accounted for over 70% of the local wholesale rice market”。“By the 20th century, Teochew-owned remittance houses accounted for 70% of the local market”。潮州系の米商人については“some of whom operated rice mills in Bangkok”。OCBC, “Milestones”（ocbc.com、2026年11月最終閲覧）：1972年、Four Seas Communications Bankを買収。Wikipedia, “OCBC Bank”（2026年11月最終閲覧）：1972年12月のFour Seas Communications Bankの買収。 ↩

6. Wikipedia, “Chinese Commercial Bank”（2026年11月最終閲覧）：“the first Hokkien bank in Singapore”。林秉祥（Lim Peng Siang）と、李俊源（Lee Choon Guan）、林文慶（Lim Boon Keng）博士を含む商人たちが設立。1912年8月17日にHill Streetの中華総商会で株主総会。名目資本金400万ドル、発行資本金200万ドルは応募超過。1912年12月2日にNo. 31 Market Streetで営業開始。Wikipedia, “Chinese Commercial Bank”（2026年11月最終閲覧）：初年度利益84,742.03ドル、うち30,000ドルを一般準備金に、10,000ドルを貸倒れ・回収不能懸念債権準備金に繰入れ。 ↩

7. Wikipedia, “Lim Peng Siang”（2026年11月最終閲覧）：1872年厦門生まれ。1904年に弟の林秉懋（Lim Peng Mau）とともに和豊グループを創設。1911年のWee Bin & Co.の清算に際しその事業の大部分を引き継ぐ。1913年にHo Hong Steamship Company Ltd.を設立。1913年から1916年までシンガポール中華総商会会長（1914年は副会長）。1944年3月21日死去。Wikipedia, “Ho Hong Bank”（2026年11月最終閲覧）：1917年3月15日に林秉祥が登記。1917年4月2日に営業開始。授権資本800万ドル、発行資本400万ドル、うち350万ドルが引き受けられ、その半額が払込み。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

8. Wikipedia, “Ho Hong Bank”（2026年11月最終閲覧）：当初の支店はマラッカとムアル。1917年7月1日にバトゥ・パハ支店開設。1918年5月にペナンで営業開始。1919年5月末までにロンドン、ニューヨーク、サンフランシスコ、スマランに代理店を持ち、“the first Chinese bank to have that many branches and agencies”となったこと。1920年9月に授権資本を800万ドルから2,000万ドルに増額。1923年10月1日に香港支店を正式開設。Wikipedia, “Ho Hong Bank”（2026年11月最終閲覧）：蕭保齢（Seow Poh Leng）が外国為替業務を開始。“the first Chinese bank in Malaya to engage in international banking”。 ↩

9. National Library Board, Singapore Infopedia, “Tan Ean Kiam” (SIP_1719)：同行は1919年6月28日、米商人Khoo Kok Wahが率いる福建系商人のグループによって、払込資本金525万ドルで設立されたこと。Roots.gov.sgは林義順（Lim Nee Soon）と陳延謙（Tan Ean Kiam）を創業者として挙げていること。 ↩

10. Saran Singh, “A Brief History of Banks in the Straits Settlements and Malaysia 1840–1986 (Part II)”, dniewcollectors.blogspot.comに再掲, September 2011：Oversea-Chinese Bank Ltd、シンガポール、1919年設立、払込資本金5,250,000ドル。Institute of Southeast Asian Studies, “Biographical Notes: Tan Chin Tuan (1908–2005)”, ISEAS Library (2023), p. 1：Tan Cheng Siongは1919年の設立時に華僑銀行の取締役であり、“the bank’s first non-English educated general manager”であったこと。1922年死去。Wikipedia, “Chinese Commercial Bank”（2026年11月最終閲覧）：1929年に同行と華僑銀行が5階建てのChina Buildingを共同で建設したこと。 ↩

11. Wikipedia, “Kwong Yik Bank”（2026年11月最終閲覧）：地元の広東系実業家が1920年に利華銀行（Lee Wah Bank）を設立したこと。Saran Singh, “A Brief History of Banks in the Straits Settlements and Malaysia 1840–1986 (Part II)”, 2011：Lee Wah Bank Ltdは1920年3月20日に法人化。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

12. National Archives of Singapore, private records A-218, “Singapore’s second largest bank, United Overseas Bank (UOB) takes over Lee Wah Bank”（1972年12月）。Wikipedia, “United Overseas Bank”（2026年11月最終閲覧）は1973年としています。他の資料は、買収の異なる段階について1971年または1983年としています。 ↩

13. W. G. Huff, “Currency Boards and Chinese Banking Development”, 2003, p. 5：福建系3行の成長は“paralleled Malaya’s development as the world’s main rubber exporter, and all three relied fundamentally on sponsors and directors involved in the production and processing of rubber”であり、その中には李光前（Lee Kong Chian）、林義順（Lim Nee Soon）、葉平玉（Yap Pheng Geck）が含まれること。W. G. Huff, “Currency Boards and Chinese Banking Development”, 2003, p. 6：華人銀行の預金は第一次世界大戦中に“grew fourfold”し、スティーブンソン制限計画の下で“between 1924 and 1925 more than doubled”し、また“more than halved between 1919 and 1922”。 ↩

14. W. G. Huff, “Currency Boards and Chinese Banking Development”, 2003, pp. 5–6：ゴムの重要性により、“industry-specific risk for the rubber sector and systemic risk to the entire economy almost synonymous”となったこと。 ↩

## Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.